



## 「念ずれば 花ひらく」

寒さが少しずつ和らぎ、休眠していた桜の花芽も寒さに耐え、眠りから覚めて開花の準備を始めています。春の訪れがもう間近に迫る3月、今年度もいよいよ最後の月となりました。

先日の6年生を送る会では、お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えようと、一生懸命に発表に取り組む子どもたちの姿とともに、その様子を真剣にそしてあたたかく見守る6年生の姿に胸が熱くなりました。何事にも真面目に努力し、詳徳小を支え、牽引してくれた6年生に多くのありがとうの気持ちが伝わったことを嬉しく思います。残りわずかとなった小学校生活ですが、自分にもそして誰かの思い出にも多くの笑顔が残せるよう、一日一日を大切に過ごしてほしいと願います。

さて、子どもたちはこの1年間で多くのことを学びました。特に今年度は、言語活動を中心とした研究の中で、読書活動に力を入れ学力向上を図ってきました。デジタル新聞の活用、読書、読むことや書くことに重点を置いた授業等をとおして、自分の考えを表現する力や、粘り強く学習する力を伸ばしてきました。この度、これらの取組が評価され、本校が京都丹波の教育推進表彰(チーム表彰)に選ばれました。この受賞は、教職員のみならず、読書環境の整備や読み聞かせにご尽力いただいているボランティアの皆様、PTAの活動として家庭における読書活動にご協力いただいた役員の皆様、ふぁみよみをはじめ、積極的に読書に取り組んでいただいた保護者の皆様が、同じ目標のもと、子どもたちのためにチームとして力を合わせていただいたおかげと、心から感謝いたします。この受賞を励みに、今後も子どもたちの学力向上に向け、工夫した取組を進めていきたいと思ひます。

「念ずれば 花ひらく」詩人 坂村真民さんの詩の一節にこんな言葉があります。一生懸命努力すれば、自ずと夢や目標がかなうという意味です。この詩は「(中略)このことばを わたしもいつのころからか となえるようになった そうしてそのたび わたしの花がふしぎと ひとつひとつ ひらいていった」と続きます。6年生が咲かせてくれたたくさんの花を、本校の伝統として引き継いでいくとともに、残り少ない今年度ですが、子どもたち一人一人が、今を一生懸命生き努力することで、花を咲かせ「できる」喜びを一つでも多く感じてほしいと願います。校庭の桜が満開になるように

亀岡市立詳徳小学校長 平井 眞理子

### 凧揚げを楽しんだよ!!【1年】

生活科「むかしからの あそびを たのしもう」の学習と関連して、自分だけの凧を作りました。「何を描こうかな〜。」と悩みながら、クレパスを使って色鮮やかに絵を描きました。

凧揚げを初めて体験する子どもも多くいましたが、風の具合を見ながら何度も挑戦。思う存分凧揚げを楽しみました。



### 「馬頭琴」ってどんな楽器?【2年】

国語科「スーホの白い馬」の物語に登場する馬頭琴。いったいどんな楽器なのかな?どんな音色なのかな?と興味津々に学習を進めた子どもたち。そこで、馬頭琴奏者の鳥木舞子さんをお招きし、モンゴルの国についてのお話を聞いたり、馬頭琴の演奏を聴いたりしました。また、一人一人馬頭琴を実際に演奏してみるという貴重な体験もさせていただきました。